令和４年２月９日

令和３年度 第３回学校運営協議会実施報告

実施日時：令和４年２月９日（水） 15:40～16:55
実施場所：本校会議室
学校運営協議会
委員 出席者 （五十音順、敬称略）
　長田委員、塩見委員、田中委員、中山委員
事務局出席者
　明石（校長）、田中（教頭）、田澤（事務長）、美濃（首席）、佐藤（首席）、隼田、山下
　松原、三森、諸井、橋本、鈴木、國府、江良（分掌長・学年主任）　　合計 14 名
議事：
１．各分掌・学年の今年度の総括について
２．学校教育自己診断アンケート 2021（R3）年度総括について
３．令和３年度の学校評価（案）について
４．令和４年度の中期的目標（案）について

◎委員　○校長　●事務局
＜１．各分掌・学年の今年度の総括について＞
●首席、教務部、進路指導部、生徒部、保健部、企画部、3 年生、2 年生、1 年生、共生推進教室より今年度の取組みについての総括を報告。
＜２．学校教育自己診断アンケート 2021（R3）年度総括について＞
●担当より説明
　今年のポイントは、アンケートが 4 件法から 5 件法に変更し「 E.判断できない・わからない」を追加した。
　保護者の回答では以下の項目で高い評価が示された。
21 学校では子どもに関する個人情報が守られている。 97P
26 懇談週間は生徒・保護者・教員の意思疎通のために活用されている 。 90P
22 学校は、教育情報について，提供の努力をしている 。 90P　 など
　また、生徒との信頼感を示す項目の肯定的評価は上昇傾向にあった。
34.先生は生徒のプライバシーや他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。86P
12.先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれると思う。83P
3.先生は生徒の意見を聞いてくれる。83P
　ただ、コロナ禍による影響か，保護者の「1.子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の数値は-4P となった。挨拶や言葉かけなど日ごろのコミュニケーションはもちろん 学校経営計画にも示されているように教育相談体制の一層の強化とカウンセリングの手法を用いた対話主体の生徒支援を継続していきたい。
　今後の課題として、教育のＩＣＴ化を推進して学校全体の改善をはかるために、授業改善はもとより業務改善にもＩＣＴ機器等を積極活用していく必要がある。また「分掌間連携」「教科横断」「外部資源の活用と外部機関との連携」を強化しながら生徒のもつ力を引き出

し伸ばしていく指導を全教職員で心がけていきたい。

◎5.授業では、実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がよくある。　27P

と評価が低くあるが、コロナ禍で色んな所に出かけることができないときこそリモートが活用できると思う。さらにリモートを活用した連携が増えればと思う。

小学校へ出向いての取組みは専門コースの取組みか。

●はい。社会文化コミュニケーションコースの生徒の中から選出し対応している。ある小学校から「家で YouTube を見すぎている。」「ネットゲームで悪い言葉をつかう。」などネット関係の課題として問題提起された。そのことについて、本校の生徒が自作した劇を行うなど児童に考えさせるきっかけを作ることができた。

◎保護者のアンケート回答率が低いのはなぜか。

●昨年度は初めての Web 形式による回答であったため周知回数を多くした。今回はそれほど頻繁に周知をしていなかったことが回答率の低さつながったのかもしれないのでより一層の周知に努めたい。

◎一人一台のタブレット端末（クロームブック）を活用した授業を進めていただいているが、今の生徒にはタブレット端末よりスマホの操作に慣れていると思う。スマホをいかに使うかということの方が、効果が上がると思うが。

●スマホを使用させると通信費が個人負担になる。生徒の中にはスマホはゲーム、遊びで使用。クロームブックは勉強に使うという住み分けを行っている者もいる。

●クロームブックでもスマホのようにタッチで操作できるので、環境に合わせて使い分けができればよいと思う。

◎アンケート項目を精選して少しでも回答率が上がることと、より適切な回答につながればと思う。

＜３．令和３年度の学校評価（案）について＞

●校長より以下について説明。

【進路実現をはかる学力の育成】

（１）「わかる授業」をめざし創意工夫の授業改革に取り組む

ア・学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」肯定率 76%（＋7p）

「教え方に工夫している先生が多い」84%（＋9p）「視聴覚機器や PC を使う機会がよくある」88%（＋8p）等、昨年度大幅に上昇した設問の回答が今年度も上昇している。視聴覚機器や PC 等を授業で利活用している教員が 10 月の段階で全体の 58%となった。オミクロンの流行後、オンラインの授業などでさらに活用は増えてきている。今後も 1 人一台端末を使用しての授業改革に継続的に取り組んでいきたい。（◎）

イ・地元 5 中学の進路主担者、支援教育主担者との情報交換会は 2 回実施できた。また、専門コースの授業公開を行い、研究協議を 1 回実施した。（○）

（２）「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成を図る

ア・学力生活実態調査の上位者 A・B 1 ゾーンの生徒数 26 名。（○）

進路別満足度アンケートでの肯定的回答 93%。（○）

学校教育自己診断（保護者）「学校の学習指導方針に共感できる」88%（＋7p）

イ・学習支援クラウドサービスを活用したオンライン学習等での反転授業を見据えて本校生の実態把握するために設定した「家庭学習が習慣となった」42%（－4p）は、サービス

を活用してすでに家庭学習をするように教員から指示はしている。ただ生徒はそれを家庭学習と捉えたかどうかは差異が生じていると考えられる。

「勉強方法が身についた」は、自主的に自学自習できる生徒を育成するために設置した項目である。今年度も「勉強マラソン」は感染状況の悪化のため中止せざるを得なかったため評価なし。(－)

・中堅私大の合格者８人。看護医療系合格者 21 人。(◎)

人文ステップアップコースについては立命館大学と「構造方策プロジェクト」の連携授業を実施できた。(○)

・図書館の定期的な開館は実施できた。蔵書のコンピュータ登録も順調に進み、次年度の常時開館と蔵書貸し出しに一定のめどが立った。(○)

（３）多様な進路ニーズに応えるため専門ｺｰｽや総合系の授業を充実させる

ア・高大連携の参加者への満足度アンケートで肯定的回答　（集計中）

イ・社会文化コミュニケーションコースのフィールドワーク、出前授業の参加者への満足度アンケートで肯定的回答　（集計中）

・美術工芸表現コースの制作・発表に関する満足度アンケートの肯定的回答　（集計中）

【豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成】

（１）学校経営推進費支援校として「心を鍛えるつばさチャレンジ」の取組みにより社会に通用するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力のある人材を育成

ア・令和２年度教育庁の学校経営推進計画の支援校に選ばれ、開発的カウンセリングを中心とした生徒の自己肯定感の向上をめざした取組み「心を鍛えるつばさチャレンジ」も２年めを迎えた。学校教育自己診断（教員）で「教育相談体制が整備」の肯定率 73%で75%を維持できなかったが、同（教員）「この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」78%（＋9p)、同（教員）「教職員は生徒の意見をよく聞いている」83%（＋12p）同（生徒）「先生は生徒の意見を聞いてくれる」83%（＋8）など、体制作りから日常の生徒との実践で生かされる局面に移ったと考えている。(◎)

イ・学校教育自己診断（生徒）「学校に行くのが楽しい」80%（＋2p）

生徒の自己肯定感を向上させることを目標に相談活動に取り組んだ。SC,SSW といった心理面と福祉面での専門家に指導助言いただくだけでなく、専門家派遣事業も複数回活用して生徒支援につなぐことができた。(◎)

ウ・同（生徒）「授業を通して自信がついた」64%（＋7p）(○)

生徒の自己発信力を高めるためにプレゼンテーション能力の向上を図った。

（２）規範意識と帰属意識の育成

ア・遅刻者数を前年度比で５%減少[3585]＋1.1P、欠席者数は前年度同程度を維持。[3566]＋1.2ｐ　12 月段階の数値で１月以降集計中。(×)

学校教育自己診断（保護者）「学校の生徒指導の方針には共感できる」84%（＋8p）同（生徒）「学校生活についての先生の指導には納得できる」70%（＋9p）

イ・学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い」80%（＋10p）

同（生徒）「先生はプライバシーや知られたくない秘密を守ってくれる」86%（＋5p）

・SNS 関係の LHR は年２回終了。

・担任と進路指導部による生徒面談は年２回終了。(○)

（３）部活動の活性化

ア・部活動の入部率（54）%、年度内退部率(0)%。
入部率促進のため、生徒会執行部、部活代表者会議との共催で部活動集会や入部勧誘放送、ポスター掲示、HP 上で定期的な部活動情報の発信など、継続的な取組みを行っている。(△)

（４）社会への参画意識の育成

ア・小学校との連携は、かやの東小学校では被災地支援について、玉島小学校では SNS の安全講習についてそれぞれ本校の生徒が講師となって交流を深めた。地域との連携は地域の清掃活動「クリーン作戦」に参加するほか独自に清掃活動も行った。(○)

（５）共生推進教室の取組み

ア・共生推進教室設置校対象のアンケート等で第３学年の生徒の協働活動満足度については集計待ち。

イ・３年生全員の進路実現 100%達成。うち１名は障がい者枠ではなく、一般就労枠にチャレンジして内定を得た。(○)

【校内組織の改革と後継者の育成】

（１）チーム学校として機能する体制整備

ア・学校教育自己診断（教員)「相談し合える職場の人間関係ができている。」64%（＋12p）

イ・同（教員)「学校行事の工夫改善を行っている。」83%（＋4p）

ウ・同（教員)「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」86%（＋9p）
「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」90%（＋9p）(◎)

（２）人材育成と意識改革

ア・学校教育自己診断（教員)「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」98%（＋2）
同（教員)「教員の間で、授業方法について検討する機会を積極的に持っている」80%（＋28p）授業見学週間等年２回終了。(◎)

イ・時間外勤務の抑制と昨年度比５%縮減[12 月段階で‐4%].
および一斉退勤日の設定[11 月から 19 時退勤を隔週火曜日。
ノークラブデーを毎週火曜日に設定して運用中] [△]

＜４．令和４年度の中期的目標（案）について＞

●校長より以下について説明

【進路実現をはかる学力の育成】

（１）学校経営推進費支援校として「心を鍛えるつばさチャレンジ」の取組みにより社会に通用するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力のある人材を育成

ア・学校教育自己診断（生徒）
「授業は分かりやすい。」肯定的回答 75%以上を維持。
「視聴覚機器や PC を使う機会がよくある」肯定的回答 80%以上を維持。

イ・異校種連携で研究協議１回以上設定。

（２）規範意識と帰属意識の育成

ア・学力生活実態調査の上位者（A・B１ｿﾞﾝ）10 人
進路実現に対する満足度の肯定的回答 90%維持。

イ・学習支援クラウドサービスの活用により学校教育自己診断（生徒)「家庭学習が習慣となった。」肯定率 50%。「勉強方法が身についた。」肯定率 50%をめざす。

・中堅私大の合格者３人以上をめざす。看護医療系合格者 10 人以上を維持。

・週２回昼休みの図書館の開館と蔵書の貸し出しをおこなう。

（３）多様な進路ニーズに応えるため専門ｺｰｽや総合系の授業を充実させる

ア・参加生徒へのｱﾝｹｰﾄで満足度 60%以上。

イ・社会文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽのﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸの参加者へのｱﾝｹｰﾄで満足度 70%以上。
美術工芸表現ｺｰｽはｱﾝｹｰﾄにより制作の発表における満足度 70%以上。

【豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成】

（１）学校経営推進費支援校として「心を鍛えるつばさチャレンジ」の取組みにより社会に通用するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力のある人材を育成

ア・学校教育自己診断（教員）で「教育相談体制が整備」の肯定的回答 75%以上を維持。
同（教員）カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導をおこなっている」の肯定的回答 75%以上を維持。

イ・同（生徒）「学校に行くのが楽しい。」肯定的回答 80%以上を維持。

ウ・同（生徒）「授業を通して自信がついた。」肯定的回答 65%をめざす。

（２）規範意識と帰属意識の育成

ア・遅刻者数を前年度比で５%減少[3585]、欠席者数は前年度同程度を維持する。

イ・学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身に応じてくれる先生が多い。」80%維持。
同（生徒）「先生はプライバシーや知られたくない秘密を守ってくれる。」80%以上を維持。

・SNS 関係の LHR の実施[２回/年]

・担任と進路指導部による生徒面談の実施[２回/年]

（３）部活動の活性化

ア・１年生の部活動の入部率 60%をめざし、年度内の退部率を５%以内とする。

（４）社会への参画意識の育成

ア・小中学校、地域自治会との連携の機会を年１回設定する。

（５）共生推進教室の取組み

ア・共生推進教室設置校対象のｱﾝｹｰﾄ等で第３学年の生徒の協働活動満足度 60%。

イ・３年生全員の進路実現 100%

【校内組織の改革と後継者の育成】

（１）チーム学校として機能する体制整備

ア・「学校教育自己診断（教員）相談し合える職場の人間関係ができている。」55%をめざす。

イ・同（教員）「学校行事の工夫改善を行っている。」肯定的回答 70%維持。

ウ・各専門コースで教材の共有を図る。
同（教員）「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」肯定的回答 80%以上維持。

（２）人材育成と意識改革

ア・経験年数の少ない教員への授業見学週間等の設置。[２回/年]
同（教員）「教員の間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」肯定的回答 75%以上維持。

イ・時間外勤務の抑制と昨年度比５%縮減、および一斉退勤日の設定と遵守。[月１回]

◎新型コロナウイルス感染症対策について他校との情報共有等はされているのか。

●地区校長会をはじめ様々な委員会をとおして情報共有等を行っている。また、対応について

は教育庁からの通知を基本として全職員でスムーズに取り組むことができている。
◎生徒の遅刻について、家庭や学校、友人関係など様々な理由があるかと思うが指導をとおして生徒のモラルや達成感を高めていただきたい。
●学校としては部活動の活性化を含め、学校に行きたいと思わせるような仕掛けづくりが必要でそれを作っていきたい。
◎PDCA サイクルを定着させていただきたい。
◎地域に住んでいるため、先生方が遅い時間まで働いているのがわかる。健康管理のうえでも働き方改革を進めていただきたい。
◎社会参画に熱心で特に茨木はユネスコスクールが多い地域になっている。北摂つばさ高校の特別非常勤講師としてかかわっており、生徒には環境に関するスクールに参加してもらった。参加した生徒の保護者の方から高い評価を得ることができた。今後、社会参画を行う受け皿を作っていただくと地域の方からも様々な相談ができるのではと思う。
●社会参画については、地域の色んなとことろに力をお借りしながら進めていくことができればと思う。
◎新型コロナ対応 2 年目を迎えていることもあり、学校としての取組みや対応も変化していると思うので、次年度の目標に反映させていただければと思う。
◎PDCA サイクル以外にも様々な方法がありますので教育現場に合わせた効果的な方法を研究していただければと思う。
◎学校運営協議会として、次年度の中期目標について承認します。

＜その他、校長が必要と認める事項について＞
●特にありません。

＜授業その他の教育活動に係る保護者からの意見の調査審議に関する事項について＞
●保護者から意見は届いていないため特段報告はありません。

校長よりお礼